

第 36 回定時株主総会招集ご通知に際しての インターネット開示事項

- ① 連結計算書類の連結注記表
- ② 計算書類の個別注記表

平成 25 年 6 月 1 日から

平成 26 年 5 月 31 日まで

上記の事項につきましては、法令および定款第 17 条の規定に基づき、インターネット上の当社ウェブサイト（<http://www.honeys.co.jp>）に掲載することにより、株主の皆さまに提供しております。

株式会社ハニーズ

連 結 注 記 表

I 連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項等

1. 連結の範囲に関する事項

- (1) 連結子会社の数 3 社

連結子会社の名称

株式会社ハニークラブ

好麗姿(上海)服飾商貿有限公司

Honeys Garment Industry Limited

- (2) 非連結子会社の数 2 社

非連結子会社の名称

好麗姿(香港)有限公司

株式会社ハニーズハートフルサポート

- (3) 連結の範囲から除いた理由

好麗姿(香港)有限公司は休眠会社であり、株式会社ハニーズハートフルサポートは小規模会社であることから、総資産、売上高、当期純損益及び利益剰余金等は、いずれも連結計算書類に重要な影響を及ぼさないため、連結の範囲から除外しております。

- (4) 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日が連結決算日と異なる会社は次のとおりであります。

<u>会 社 名</u>	<u>決 算 日</u>
好麗姿(上海)服飾商貿有限公司	12月31日 ※1
Honeys Garment Industry Limited	3月31日 ※2
※1 3月31日現在で決算に準じた仮決算を行った計算書類を基礎としており、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。	
※2 決算日現在の計算書類を使用しております。ただし、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。	

2. 持分法の適用に関する事項

- (1) 持分法適用会社

持分法適用会社はありません。

- (2) 持分法非適用会社

非連結子会社

好麗姿(香港)有限公司

株式会社ハニーズハートフルサポート

- (3) 持分法を適用しない理由

上記の持分法非適用の非連結子会社は、当期純損益及び利益剰余金等に及ぼす影響が軽微であり、かつ全体としても重要性がないため、持分法の適用範囲から除外しております。

3. 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

① 有価証券

その他有価証券

・時価のあるもの

連結決算日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

・時価のないもの

移動平均法による原価法

② デリバティブ

時価法

③ たな卸資産

商品

総平均法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）

貯蔵品

生地等…先入先出法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）

その他…最終仕入原価法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

① 有形固定資産（リース資産を除く）

主として法人税法に規定する定率法

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（付属設備を除く）については、法人税法に規定する定額法を採用しております。

主な耐用年数

建物…3年～50年

また、取得価額10万円以上20万円未満の少額減価償却資産については、3年間で均等償却しております。

② 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法

なお、ソフトウェア（社内利用）については、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。

③ リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

なお、リース取引開始日が平成20年5月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を引き続き採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

① 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

② ポイント引当金

インターネット販売において顧客に付与したポイントの将来の利用に備えるため、当連結会計年度末における将来利用見込額を計上しております。

(4) その他連結計算書類の作成のための重要な事項

(退職給付に係る会計処理の方法)

① 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

② 数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（５年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理することとしております。

(外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準)

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

なお、在外子会社の資産及び負債は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めて計上しております。

(ヘッジ会計の方法)

① ヘッジ会計の方法

原則として繰延ヘッジ処理によっております。

② ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段…為替予約

ヘッジ対象…商品輸入による外貨建買入債務及び外貨建予定取引

③ ヘッジ方針

デリバティブ取引に関する取り決めに基づき、ヘッジ対象に係る為替変動リスクを一定の範囲内でヘッジしております。

④ ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ対象とヘッジ手段のキャッシュ・フロー変動の累計を半期毎に比較し、両者の変動額等を基礎にして、ヘッジ有効性を評価しております。

(消費税等の会計処理)

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっております。

Ⅱ 会計方針の変更

(たな卸資産の評価方法の変更)

当社及び連結子会社の商品の評価方法は、従来、主として売価還元法によっておりましたが、当連結会計年度から、新在庫システムが本稼動し、継続記録による商品の受払に基づく在庫単価の計算がシステム化されたことに伴い、より合理的な商品の評価及び適正な期間損益の計算が可能になったため、総平均法に変更しております。

当該会計方針の変更は遡及適用されております。

なお、期首における純資産額に対する影響額の主なものは、利益剰余金556,145千円の減少であります。

(退職給付に関する会計基準等の適用)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を当連結会計年度末より適用し(ただし、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めを除く。)、退職給付債務から年金資産の額を控除した額を退職給付に係る負債として計上する方法に変更し、未認識数理計算上の差異を退職給付に係る負債に計上いたしました。

退職給付会計基準の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従っており、当連結会計年度末において、当該変更に伴う影響額をその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額に加減しております。

この結果、当連結会計年度末において、退職給付に係る負債が1,374,967千円計上されております。また、その他の包括利益累計額が9,357千円減少しております。

Ⅲ 連結貸借対照表に関する注記
有形固定資産の減価償却累計額

10,905,077千円

Ⅳ 連結損益計算書に関する注記
減損損失

当連結会計年度において、当社グループは、以下の資産のグループについて減損損失を計上いたしました。

なお、場所については、地域別に記載しております。

(単位：千円)

用途	種類	場所	金額
店 舗	建物 器具及び備品	北海道地域 4 店舗	7,435
店 舗	建物 器具及び備品	東北地域 3 店舗	2,129
店 舗	建物 器具及び備品	関東地域 17店舗	43,287
店 舗	建物 器具及び備品	北陸・中部地域 6 店舗	21,607
店 舗	建物 器具及び備品	近畿地域 6 店舗	10,592
店 舗	建物	中国地域 1 店舗	2
店 舗	建物 器具及び備品	四国地域 3 店舗	3,696
店 舗	建物 器具及び備品	九州地域 7 店舗	20,739
店 舗	建物	中国16店舗	38,517
計			148,009

当社グループでは、原則として店舗ごとに資産のグルーピングを行っておりますが、遊休資産は物件ごとにグルーピングを行っており、本社及び物流センターは共用資産としております。

減損損失を計上した店舗については、割引前将来キャッシュ・フロー総額が帳簿価額に満たないため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。その内訳は建物145,995千円、工具、器具及び備品2,014千円であります。

なお、上記資産グループの回収可能価額は、使用価値により測定しており、将来キャッシュ・フローを4.5%で割り引いて算定しております。

V 連結株主資本等変動計算書に関する注記

1. 当連結会計年度の末日における当該株式会社の発行済株式の総数

株式の種類	当連結会計年度期首	増 加	減 少	当連結会計年度末
普通株式(株)	27,900,000	—	—	27,900,000

2. 当連結会計年度の末日における当該株式会社の自己株式の総数

株式の種類	当連結会計年度期首	増 加	減 少	当連結会計年度末
普通株式(株)	72	14,300	300	14,072

(注) 1. 自己株式の増加株式数は、平成26年1月7日開催の取締役会において決議され、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき実行した自己株式の取得10,000株及び単元未満株式の買取りによる4,300株であります。

2. 自己株式の減少株式数は、単元未満株式の買増請求によるものであります。

3. 当連結会計年度中に行った剰余金の配当

決 議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基 準 日	効力発生日
平成25年8月20日 定時株主総会	普通株式	418,498	15	平成25年5月31日	平成25年8月21日
平成26年1月7日 取締役会	普通株式	278,999	10	平成25年11月30日	平成26年1月29日

4. 当連結会計年度の末日後に行う剰余金の配当

決議予定	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基 準 日	効力発生日
平成26年8月19日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	278,859	10	平成26年5月31日	平成26年8月20日

VI 金融商品に関する注記

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、設備投資計画、資金繰り表等に照らして、必要な資金を金融機関借入により調達しております。一時的な余資は、安全性の高い金融資産で運用しております。また、デリバティブ取引は、実需に伴う取引に限定して実施することを原則とし、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である売掛金は、取引先の信用リスクに晒されておりますが、回収までの期間が短く、貸倒実績率も極めて低い状況です。当該リスクについては、取引先ごとに期日管理、残高管理を行うとともに、信用状態が危惧される場合は、速やかに回収を図るなどリスクの低減に努めております。

投資有価証券である株式は、市場価格の変動リスクに晒されております。当該株式については、四半期ごとに時価等の把握を行っております。

差入保証金は、出店する際の賃貸借契約に伴うものであり、出店先の信用リスクに晒されております。契約締結に際しては、相手の信用状況を把握するとともに、信用状態が危惧される場合は、速やかに回収を図るなどリスクの低減に努めております。

営業債務である支払手形及び買掛金、未払費用は、ほとんどが3ヶ月以内の支払期日となっております。これらの流動負債は、その決済時において流動性リスクに晒されますが、当社グループでは、毎月資金繰り計画を見直すなどの方法により、そのリスクを回避しております。

デリバティブ取引は、将来にわたって発生が見込まれる外貨建債務に関する為替リスクをヘッジするものです。なお、ヘッジ会計に関するヘッジ会計の方法、ヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジ有効性評価の方法については、連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項等の「3. 会計処理基準に関する事項 (4) その他連結計算書類の作成のための重要な事項」に記載しております。

デリバティブ取引の管理は、社内規程に従い厳格に行っており、また、契約履行リスクを低減するため、信用力のある金融機関に限定して取引を行っております。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動する場合があります。

また、「2. 金融商品の時価等に関する事項」におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

2. 金融商品の時価等に関する事項

平成26年5月31日における金融商品の連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額は、次のとおりであります。なお時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません。（（注2）をご参照ください。）

（単位：千円）

	連結貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	5,839,377	5,839,377	—
(2) 売掛金	4,184,448	4,184,448	—
(3) 投資有価証券 その他有価証券	24,950	24,950	—
(4) 差入保証金	264,891	260,167	△4,723
資産計	10,313,667	10,308,943	△4,723
(5) 未払費用	2,254,623	2,254,623	—
負債計	2,254,623	2,254,623	—
デリバティブ取引			
ヘッジ会計が適用されていないもの	128,550	128,550	—
ヘッジ会計が適用されているもの	△83,984	△83,984	—
デリバティブ取引計	44,566	44,566	—

（※）デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資産

(1) 現金及び預金、(2) 売掛金

これらは短期間で決済され、時価は帳簿価額にほぼ等しいと考えられることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

上場株式は、取引所の価格によっております。

なお、有価証券は、その他有価証券として保有しており、これに関する連結貸借対照表計上額と取得原価との差額は以下のとおりであります。

(単位：千円)

	種類	取得原価	連結貸借対照表計上額	差額
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	15,481	24,950	9,469
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	—	—	—
合計		15,481	24,950	9,469

(4) 差入保証金

これらの時価は、返済期日までの期間及び信用リスクを加味した利率により割引いた現在価値により算定しております。

負債

(5) 未払費用

これらは短期間で決済され、時価は帳簿価額にほぼ等しいと考えられることから、当該帳簿価額によっております。

デリバティブ取引

① ヘッジ会計が適用されていないもの

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引について、取引の対象物の種類ごとの連結決算日における契約額、時価及び評価損益並びに当該時価の算定方法は、次のとおりであります。

通貨関連

(単位：千円)

区分	取引の種類	契約額等		時価	評価損益
			うち1年超		
市場取引 以外の取引	為替予約取引 買建 USD	12,380,970	9,453,450	128,550	128,550
合計		12,380,970	9,453,450	128,550	128,550

(※) 時価の算定方法

取引先金融機関から提示された価格によっております。

② ヘッジ会計が適用されているもの

ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引について、ヘッジ会計の連結決算日における契約額等は、次のとおりであります。

通貨関連

(単位：千円)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等		時価
				うち1年超	
原則的処理 方法	為替予約取引 買建 USD	買掛金	7,827,050	—	△83,984
合計			7,827,050	—	△83,984

(※) 時価の算定方法

取引先金融機関から提示された価格によっております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

区分	連結貸借対照表計上額
其他有価証券 (※1) 非上場株式 差入保証金 (※2)	 4,985 7,373,103

(※1) 市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、(3) 投資有価証券には含めておりません。

(※2) 返済期限が確定していない差入保証金は、将来キャッシュ・フローを見積もることができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、(4) 差入保証金には含めておりません。

(注3) 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

(単位：千円)

	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
現金及び預金 (※)	5,715,388	—	—	—
売掛金	4,184,448	—	—	—
差入保証金	180,707	71,873	8,755	3,555
合計	10,080,543	71,873	8,755	3,555

(※) 現金及び預金には、現金123,989千円は含めておりません。

VII 1 株当たり情報に関する注記

1 株当たり純資産額

1,075円98銭

1 株当たり当期純利益

19円94銭

個 別 注 記 表

I 重要な会計方針に係る事項

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券

子会社株式…移動平均法による原価法

その他有価証券

時価のあるもの…決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

時価のないもの…移動平均法による原価法

(2) デリバティブ

時価法

(3) たな卸資産

商

品…総平均法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）

貯 蔵 品

生 地

等…先入先出法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）

そ の

他…最終仕入原価法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産（リース資産を除く）

法人税法に規定する定率法

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（付属設備を除く）については、法人税法に規定する定額法を採用しております。

主な耐用年数

建 物…3年～50年

工具、器具及び備品…3年～15年

また、取得価額10万円以上20万円未満の少額減価償却資産については、3年間で均等償却しております。

(2) 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法

なお、ソフトウェア（社内利用）については社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

なお、リース取引開始日が平成20年5月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を引き続き採用しております。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) ポイント引当金

インターネット販売において顧客に付与したポイントの将来の利用に備えるため、当事業年度末における将来利用見込額を計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。

退職給付引当金及び退職給付費用の処理方法は以下のとおりです。

① 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

② 数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生翌事業年度から費用処理することとしております。

なお、未認識数理計算上の差異の貸借対照表における取扱いが連結貸借対照表と異なります。

4. その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項

(1) ヘッジ会計の方法

① ヘッジ会計の方法

原則として繰延ヘッジ処理によっております。

② ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段…為替予約

ヘッジ対象…商品輸入による外貨建買入債務及び外貨建予定取引

③ ヘッジ方針

デリバティブ取引に関する取り決めに基づき、ヘッジ対象に係る為替変動リスクを一定の範囲内でヘッジしております。

④ ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ対象とヘッジ手段のキャッシュ・フロー変動の累計を半期毎に比較し、両者の変動額等を基礎にして、ヘッジ有効性を評価しております。

(2) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっております。

II 会計方針の変更

(たな卸資産の評価方法の変更)

当社の商品の評価方法は、従来、売価還元法によっておりましたが、当事業年度から、新在庫システムが本稼動し、継続記録による商品の受払に基づく在庫単価の計算がシステム化されたことに伴い、より合理的な商品の評価及び適正な期間損益の計算が可能になったため、総平均法に変更しております。

当該会計方針の変更は遡及適用されております。

なお、期首における純資産額に対する影響額は、利益剰余金512,583千円の減少であります。

Ⅲ 貸借対照表に関する注記

(1) 有形固定資産の減価償却累計額	9,836,232千円
(2) 関係会社に対する金銭債権債務	
短期金銭債権	1,626,755千円
短期金銭債務	16,305千円
(3) 保証債務	
以下の関係会社について、銀行借入に対し債務保証を行っております。	
好麗姿(上海)服飾商貿有限公司	216,970千円
(4) たな卸資産の内訳	
商品	5,642,845千円
貯蔵品	230,307千円
計	5,873,153千円

Ⅳ 損益計算書に関する注記

(1) 関係会社との取引高	
営業取引による取引高	
仕入高	403,594千円
販売費及び一般管理費	20,994千円
営業取引以外の取引による取引高の総額	172,064千円

(2) 減損損失

当事業年度において、当社は、以下の資産のグループについて減損損失を計上いたしました。

なお、場所については地域別に記載しております。

(単位：千円)

用途	種類	場所	金額
店 舗	建物 器具及び備品	北海道地域 4 店舗	7,435
店 舗	建物 器具及び備品	東北地域 3 店舗	2,129
店 舗	建物 器具及び備品	関東地域 17店舗	43,287
店 舗	建物 器具及び備品	北陸・中部地域 6 店舗	21,607
店 舗	建物 器具及び備品	近畿地域 6 店舗	10,592
店 舗	建物	中国地域 1 店舗	2
店 舗	建物 器具及び備品	四国地域 3 店舗	3,696
店 舗	建物 器具及び備品	九州地域 7 店舗	20,739
計			109,491

当社では、原則として店舗ごとに資産のグルーピングを行っておりますが、遊休資産は物件ごとにグルーピングを行っており、本社及び物流センターは共用資産としております。

減損損失を計上した店舗については、割引前将来キャッシュ・フロー総額が帳簿価額に満たないため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。その内訳は建物107,477千円、工具、器具及び備品2,014千円であります。

なお、上記資産グループの回収可能価額は、使用価値により測定しており、将来キャッシュ・フローを4.5%で割り引いて算定しております。

V 株主資本等変動計算書に関する注記

当事業年度の末日における自己株式の総数

株式の種類	当事業年度期首	増 加	減 少	当事業年度末
普 通 株 式(株)	72	14,300	300	14,072

(注) 1. 自己株式の増加株式数は、平成26年1月7日開催の取締役会において決議され、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき実行した自己株式の取得10,000株及び単元未満株式の買取りによる4,300株であります。

2. 自己株式の減少株式数は、単元未満株式の買増請求によるものであります。

VI 税効果会計に関する注記

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別内訳

(繰延税金資産)	
貸倒引当金	8,683千円
退職給付引当金	468,992
未払賞与	1,580
未払事業所税	20,796
未払事業税	13,080
未払社会保険料	18,230
減損損失	150,942
繰延ヘッジ損益	29,730
資産除去債務	278,669
その他	21,682
繰延税金資産合計	1,012,388
(繰延税金負債)	
その他有価証券評価差額金	△3,352
資産除去債務に対応する除去費用	△60,352
長期外貨建債権評価差額金	△15,071
デリバティブ評価益	△45,506
繰延税金負債合計	△124,282
繰延税金資産の純額	888,105

繰延税金資産の純額は、貸借対照表の以下の項目に含まれております。

流動資産—繰延税金資産	39,782千円
固定資産—繰延税金資産	848,323

VII リースにより使用する固定資産に関する注記

貸借対照表に計上した固定資産のほか、物流センターコンベア設備一式、電子計算機及びその周辺機器等の一部をリース契約により使用しております。

VIII 関連当事者との取引に関する注記

種類	会社等の名称	議決権等の 所有割合 (%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
子会社	好麗姿(上海)服飾 商貿有限公司	(所有) 直接 100.0	資金の貸付 役員の兼任	運転資金の貸付 (注)	956,823	短期貸付金	975,840

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注) 資金の貸付については、市場金利を勘案して決定しております。

IX 1 株当たり情報に関する注記

1 株当たり純資産額	1,007円47銭
1 株当たり当期純利益	38円53銭